

平成28年度 第2回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会議

日 時 平成28年10月19日(水) 18時30分～

場 所 湯梨浜町中央公民館泊分館 2階研修室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 泊地域の特徴(良い点、問題点、資源等)について・・・資料1

4. 泊地域の特徴をふまえた、今後の方向性について
(「小さな拠点推進事業」、「小さな拠点施設整備事業」の方向性)

5. その他
・視察について・・・資料2

6. 閉 会

湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会委員名簿

任期：平成28年8月10日～平成30年8月9日（2年間）

敬称略

	区分	役職	氏名	備考
1	産	鳥取県漁業協同組合 泊支所	組合員	朝日田 卓朗
2	産	湯梨浜町商工会	副会長	石沼 友 副会長
3	産	鳥取中央農業協同組合 泊支所	泊支所金融共済課 兼 ふれあい推進課長	岩本 馨
4	福	社会福祉法人 湯梨浜町社会福祉協議会	事務局長	山田 志伸
5	金	株式会社山陰合同銀行 泊出張所	出張所長	鷺野 星夫
6	公募			田嶋 昭彦
7	公募			遠藤 公章 会長
8	公募			渡邊 由佳
9	公募			中原 政喜
10	公募			石井 美佳代
11	公募			坂田 克

		湯梨浜町	副町長（地方創生担当）	山根 孝幸	
		湯梨浜町みらい創造室	室長	岩崎 正一郎	事務局
		湯梨浜町みらい創造室	町民協働担当主事	谷岡 雅也	事務局

泊地域の特徴について

平成 28 年 10 月

※ () の数字は、意見のあった委員の数です。表示の無いものは1名の意見です。

【良い点】

<自然>	
○山（生き物が豊富）、海、砂浜、川がある(8)	○農村、漁村の原風景(2)
○大山が見える	○筒地の隣地区のビワ
<人、地域>	
○イベントがあれば集まる(2)	○行政に対して理解がある、寛大(2)
○地区（集落）毎に個性が強い、絆が強い(2)	○隣近所の付き合い、助け合いがある(2)
○知り合いが多い、周囲の動きがよく伝わる、噂が広まるのが早い(2)	
○人がいい	○おだやか
○人情に厚い	○保守的
○しがらみに弱い	○やさしい
○地域を思う人材も多い	○団塊の世代が元気
○元気な高齢者が多い	○宅地があれば地元を気にしている
○平凡	○老人の村
○色々な取り組みをしている組織がいくつかある	○古い習慣がある
<環境>	
○泊港がある(3)	○駅がある(2)
○田畑がある（農地、後継者のいない土地）(2)	○のどか、静か(2)
○高速道路、インターチェンジがある(2)	
○人口も住宅面積も少なくコンパクト（谷も深くない）(2)	
○県立栽培漁業センター	○域内移動がいい
○鳥取にも倉吉にもアクセスしやすい	○グラウンド・ゴルフ発祥地、潮風の丘とまり
○施設がある（野球場、テニスコート、公園、加工場）	
<教育>	
○小学校が自校給食	○小学校が自然豊か
<イベント>	
○泊花火、とまり夏まつり(3)	○ゆりはま大漁まつり
<伝統芸能>	
○泊貝がら節(2)	○大名行列(2)
<特産品>	
○とまり漬	○料理自慢
<その他>	
○いいところはそのまま悪いところとなること	

【問題点】

<人、地域>

- 保守的（高齢者など）(2)
- 閉鎖的
- じっくり議論を積み重ねない
- 挨拶できない人が多くなった
- 集落住民意識が低くなってきている
- 外からの人や事業に関心がない
- 外からの移住者が少ない
- 平凡
- 古い習慣、縛りがある
- 旧2町への関心があまりない(2)
- 行政まかせの部分がある
- 問題解決のコンセプトが不鮮明
- 活動が固定化しやすい
- 住民間での活動が続かない
- 周囲の動きがよく伝わる、噂が広まるのが早い
- 若い世代が地元の魅力を感じていない
- 個人生活が進んでいる

<環境>

- 商店（衣食住）が少ない(8)
 - ・経営者の高齢化
 - ・新規参入が見込めない
 - ・居酒屋、飲食店がない（懇親会、コミュニティーの場）
 - ・買い物が不便
 - ・コンビニがない
- 空き家（貸家・空き家バンクの管理）、空き地(5)
 - ・空き家を活用できていない
 - ・住宅が密集しており、建替え・増築困難、自動車社会に対応しにくい
 - ・相続人が県外等遠くに住んでいるため、管理できない放棄地が出てきつつある
- 交通(3)
 - ・電車の本数が少ない
 - ・生活道路が狭い（緊急車両通行不可）
 - ・車が無い人の交通手段が乏しい
- 地理(3)
 - ・羽合、東郷から物理的に分断されている
 - ・泊地域内でも分断されている集落が多い、集落の点在、小浜、筒地、宇谷地区は泊地域中心地に通うために自動車が必要で高齢者にとって不便
- 中心（核）となる場所や組織がない(2)
 - ・拠点となる施設の老朽化（耐震化未実施）
- 外から来る人の受入態勢が整っていない（案内所、交通アクセス、専門店、宿泊施設、飲食店等）(2)
- 住宅（造成）、用地の不足（現実に検討している人は旧集落は入りやすく、浜山団地のようなところを希望している）(2)
- 高齢者や障がい者が安心して暮らせるグループホームがない
- 歩く街になっていない
- 簡易水道（生水の味は独特）
- 都市部（大阪・広島・東京）から距離がある
- ネットのスピードが遅い

<教育>

- 子育て・教育環境(3)
 - ・子どもが安心して遊べる場所（公園、広場など）が少ない
 - ・塾がない（放課後児童クラブの機能を活用できないか）
 - ・中学校、高校が遠い

<産業>

○農業・漁業(4)

- ・高齢化（営農組合の成功事例を参考）
- ・農地の荒廃
- ・従事者減少、後継者不足
- ・漁港の衰退

○働く場所がない(2)

<人口>

○少子高齢化(4)

- ・高齢者のみの世帯、一人暮らし高齢者の増加（昼間のみも含む）

○人口減少(3)

- ・若者の人口流出（所得が低い、就職先がない、小学校の存続危機）

○未婚者の増加

○昼間流入人口の減少（役場がなくなった影響）

<その他>

- 住民の特技・強みを把握しているところがない、マッチング活用する仕組みがない

- 他地域と代わり映えしない

【資源】

<自然>

- 海（魚釣場の整備、海上アスレチック、マリンスポーツ）

- 山（遊歩道、ジョギングコース、サイクリングコース）

<環境>

- 山陰道のインター（インター近くには団地が作られることが多い）

- 海水浴場（使用料などで他の海水浴場と差別化）
- グラウンド・ゴルフ（シーズン戦）

<歴史・名所>

- 城跡

- 銅鐸など（駅にレプリカ、解説展示）

- 石脇の弘法大師坐像

- 宇谷の湧水

<施設>

- JR駅（町の玄関として整備、10分くらいは時間をかけられる地元案内、イベントができる）

- 泊港（レジャー、商業使用）

- 潮風の丘（グラウンド・ゴルフ以外のイベント）

- 体育館・野球場（町外利用料を安くして利用率上昇）

- 道の駅

<海産物>

- ヒラメ養殖、ヒラメ丼（カキ小屋、カニ小屋、オリジナル海鮮丼）

【その他】

- 高齢者をもっとイキイキ動かしていく

- シングルマザー（ファーザー）のため子どもを預けられる老人託児所を設置

- 漁師・猟師育成講座

- 自然農法の講師を招く、土地を貸す

- 浜山道・宇野道をランニング・ウォーキングしやすく整備

- 町民の特権を増やす（漁業権、猟解放、農地無料賃貸）

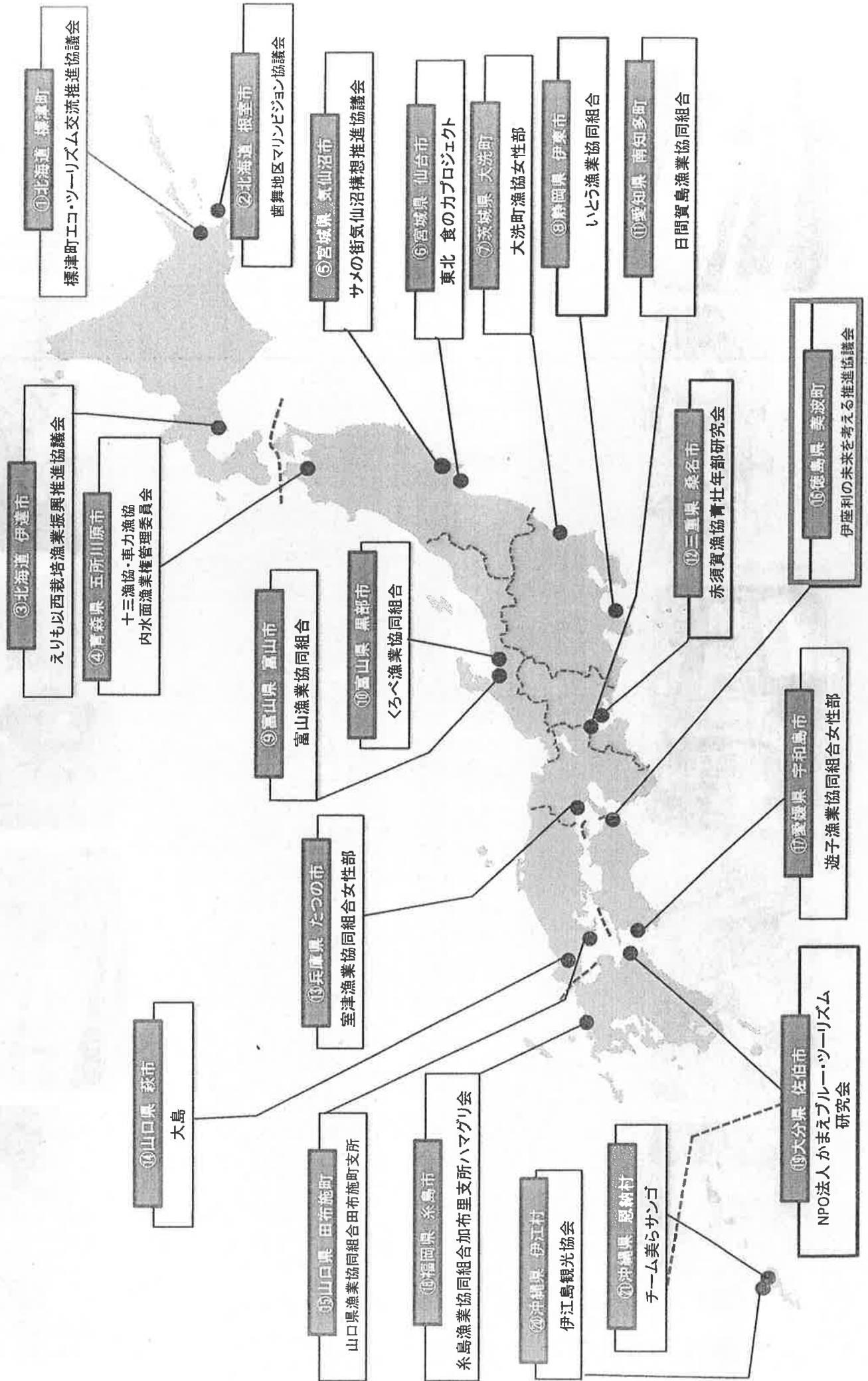


漁村活性化優良事例集

平成26年11月
水産庁



漁村活性化優良事例 一覧



①⑥ 水産業を核とした草の根漁村交流 (徳島県美波町：伊座利の未来を考える推進協議会)

○ 概要・データ

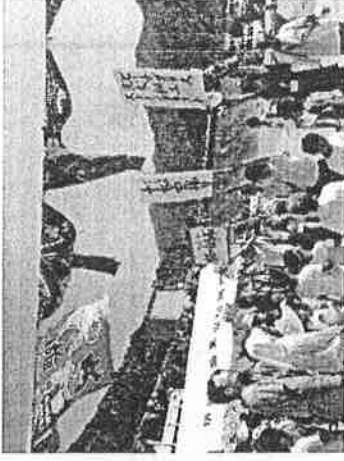
- ・伊座利地区は、美波町の東端に位置し、三方を山に囲まれた小さな漁村集落である。近年急激な過疎・高齢化により、平成4年に小中併設校の廃校問題が勃発。これをきっかけに、住民による「地域おこし」が開始。
- ・平成12年、全住民が加入する「伊座利の未来を考える推進協議会」を設立し、「交流」をキーワードに、草の根的な活動を展開。
- ・平成19年度農林水産祭 天皇杯（むらづくり部門）
- ・平成19年度オーライ！ニッポン大賞

○ 特徴的な取組

- ・家族ぐるみでの伊座利地区への転入を呼びかけるため、子どもを対象とした1日漁村留学体験「おいでよ海の学校へ」を実施。人口の増加、高齢化率の低下などの成果につながっている。
- ・地域の漁師が、地域の子供たちにあつたアワビ漁、伊勢エビ漁等の様々な体験を教え、収穫物を学校給食に提供。
- ・海女さんや漁師のおばちゃんたちで運営するイザリCafeをオープン。その日の朝獲れ鮮魚等の料理が好評で、休日には県内外から多数の人々が来訪。

○ 今後の展望等

- ・選ばれる田舎、外に開かれた田舎、出会い系の田舎を目指すことで創造的に地域・集落を再生。（「田舎deきやばくら創造」）



海の学校の開校式



伊勢エビ料理体験教室



漁業体験

徳島県美波町伊座利地区 「伊座利の未来を考える推進協議会」

【地区の概要・課題】

- ・伊座利地区は美波町の東端に位置し、平地部に 50 世帯余りが暮らす町内で最も小さな漁村集落である。
- ・生活利便性を欠くため人口減少が続き、平成 7 年には人口が 100 人を切り、高齢化率は 40% を超えていた。

【きっかけ】

- ・平成 4 年頃、急激な過疎化・高齢化により児童生徒数が激減し、地区の「伊座利校（へき地 2 級の小・中併設校）」の廃校問題が勃発した。
- ・「伊座利校」と地区住民が一体となって運動会等の活動を長年行ってきた経緯があり、伊座利校は地区の宝であったことから、地域おこしの機運が高まっていった。

【組織づくり、取組概要】

- ・町内会や漁協、学校、婦人会など、地区にあるすべての組織を融合する新たな組織として、平成 12 年に全地域住民加盟の「伊座利の未来を考える推進協議会」を設立した。
- ・漁村留学の受入れに加え、イザリ Cafe、倶楽部イザリーノキャンプ場の運営にも携わっている。

【活動拠点】

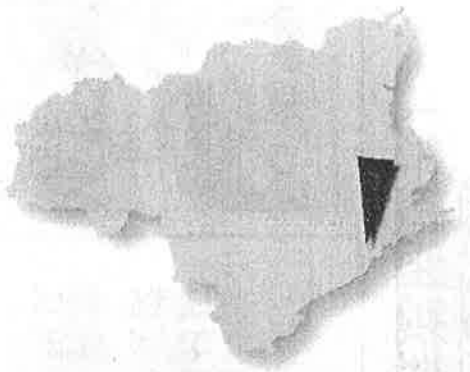
- ・協議会で誰もが気軽に立ち寄ることのできる「たまり場」のようなスペースをつくるのが検討され、平成 19 年に全住民がオーナーの「イザリ Cafe」を開店した。
- ・地域住民が季節ごとの地域産物を使った食事の提供と、宿泊施設の運営に当たっている。

【取組成果】

- ・漁村留学等を通じた住民らの受入れ環境づくりにより、かつて 5 名にまで落ち込んだ児童・生徒数が、平成 25 年には 24 名にまで増加した。
- ・平成 17 年に 40% を超えていた高齢化率が徐々に低下し、現在は 20% 台を維持している。
- ・1～2 年の短期を含め、首都圏、関西圏、徳島県内など、全国各地から、現在までに 100 人を超える転入生を受入れてきた。
- ・地域の新たな担い手となる漁師や海女さんを希望する都市部の若者などを受入れている。
- ・「交流」をキーワードに、関西や首都圏、徳島市等に「伊座利応援団」を組織し、約 1,000 名の応援団員が伊座利地区の地域づくりを応援し、交流の輪を広げている。

【苦勞した点・成功のポイント】

- ・会員自らが資金を調達し、運営費に充てるなど、自らの手で地域の活性化を実現しようという意識が高い。
- ・前例や慣例、固定観念にとらわれず、外部や女性の視点を積極的に取り入れ、「選ばれる田舎」を目指し、遊び心を持って活動している。



伊座利校



イザリ Cafe



一日漁村留学体験
「おいてよ海の学校へ」の様子